

新型コロナウイルス(COVID-19)への対応について

Q1: **コロナウイルス感染が疑われる場合**、どこで相談すれば良いでしょうか？(2020-05-09 改定)

A: ☆少なくとも以下のいずれかに該当する方は、**帰国者・接触者相談センターにすぐに御相談ください**。(これらに該当しない場合の相談も可能です)

- 息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合
- 重症化しやすい方(※)で、発熱や咳等の比較的軽い風邪の症状がある場合

(※)高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患(COPD等)等の基礎疾患がある方や透析を受けている方、**免疫抑制剤**や抗がん剤等を用いている方

- 上記以外の方で発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合

(症状が4日以上続く場合は必ず御相談ください。症状には個人差がありますので、強い症状と思う場合にはすぐに相談してください。解熱剤などを飲み続けなければならない方も同様です。)

☆相談は、**帰国者・接触者相談センター**に御相談ください。

《最寄りの帰国者・接触者相談センター》

新型コロナウイルス感染症 電話相談窓口

電話:0570-200-613 (受付時間:24時間 土・日・祝日含む)

習志野保健所 電話相談窓口

電話:047-454-5154 (受付時間:9:00~17:00 平日のみ)

※国や保健所の方針は変更される場合がございます。ご注意ください。

リウマチなど治療中の方へ

Q2:リウマチ・膠原病などで免疫が低下している人が注意する事はありますか？

A: 新型コロナウイルスの付着を避けることと、付着した場合でも口や鼻からウイルスを体内に入れないように注意して下さい。

Q3:『**免疫抑制薬をどの様にしたら良いか**』？

A: 現時点では、免疫抑制薬服用者が感染リスクを上昇させるという報告はされていません。重症化のリスクが上昇することが報告されているのは、糖尿病、高血圧、心疾患、脳血管疾患です。

- 感染症の兆候がない場合は免疫抑制薬、生物学的製剤、抗リウマチ薬、ステロイドは、原則として同じ用量で継続使用とします。
- 感染症の兆候がある場合は、これら薬剤は重症化のリスクが考えられますので、ステロイド(プレドニン、プレドニゾロン、レダコート、メドロールなど)は原則同じ用量で維持、他の免疫抑制剤は減量や投与の一時的延期などを慎重に検討し、通常感染症時と同様に対応することになっています。ステロイド剤はそのまま服用していただき、他の免疫抑制剤(経口剤のリウマトレックス、メトレキサート、メトレート、プログラフ、タクロリムス、注射のエンブレル、エタネルセプト、ヒュミラ、シムジア、シンポニー、アクテムラ、ケブザラ、オレンシア)はとりあえず中止していただきお電話で当院にご相談ください(日本リウマチ学会のホームページを参考)。ただし上記Q1に示した状態の方は医療施設に受診などされる前に**帰国者・接触者相談センター**にお電話をしていただく必要があります。